

かつちゆう

甲冑 (よろいかぶと) って、
どれくらいの重さがあるの？



甲冑は、身体をまもるための防具として身につけるもので、頭にかぶる「かぶと」と、身体にまとう「よろい」をあわせて「甲冑」と呼びます。

漢字で「かぶと」は冑・兜、「よろい」は甲・鎧などと書きます。野馬追の騎馬武者には欠かすことができない武具の一つです。

きんぱくおししほかわづみ
金箔押皺革包

いよざねはなだいととしこしとり にまいどうくそく
伊予札縹糸綴腰取二枚胴具足

江戸時代の中ごろ 兜銘「明珍吉次作」個人所蔵

鉄や革の部品を、糸や鎖でつなぎ合わせたり、布に縫いつけたりして作った甲冑です。全体に金箔を張り付けていて、とてもはなやかです。

兜の裏には、明珍吉次という甲冑を作った職人さんの名前（銘）が刻まれています。

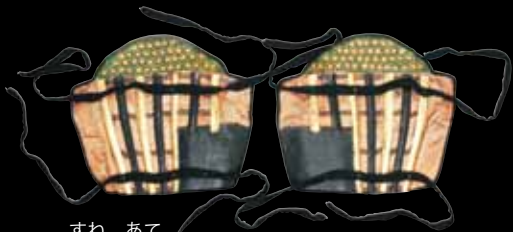
とても強そうに
みえるね！



甲冑は、身体^{からだ}の各部をまもるパーツごとに分かれています。一つ一つの重さを^{はか}量ってみましょう。



はい だて
佩楯
太もも～ひざをまもるもの
0.8 キログラム



すね あて
膝当
すねをまもるもの
両方で0.6 キログラム

どう
胴
胴体をまもるもの
6.2 キログラム



かぶと
兜
頭をまもるもの
2.7 キログラム



めん ぼお
面頬
顔をまもるもの
0.4 キログラム



そで
袖
肩をまもるもの
両方で0.8 キログラム



こ て
籠手
腕をまもるもの
両方で1.4 キログラム



全部あわせると……

12.9 キログラム!

どうかな…?みんなが思っているより重かった?軽かった?ここで紹介した甲冑はあくまでも参考です。ひとくちに甲冑と言っても、いろんな材料で作られているんだ。重くてぶ厚い鉄板とか、軽い革^{かわ}で作られたもの、変わったものでは紙を固めて作られたものもあるから、この甲冑より、重いのも軽いものもあるよ。

着^{きかた}方が下手だと、重みはずっしりときて、肩が痛くなるけど、上手に着ればどこも痛くならないし、重みもそんなに感じないよ。

